



H28年度人権・同和教育だより *2学期編

平成28年12月22日

今学期は、11月25日(金)に人権・同和教育研究授業を実施しました。また12月4日から人権センターで始まった「いのち・愛・人権」展にあわせて、期末試験明けの12月7日(水)から12日(月)にかけて、1日3クラスずつ、全校生徒が見学しました。今回は研究授業の成果や生徒の感想についてお伝えします。

※ 人権・同和教育研究授業から

今学期の1年生は、「偏見を打ちこわせ!」として、自分の思い込みや無意識の差別に気づき、そこから偏見が生まれることについて学習しました。2年生は「部落差別から学ぶ～差別はなくせないのか」として、「解放令」が出されてもなお消えることがなかった差別心理の恐ろしさから、現在の社会での生き方について考えました。3年生は「より良い働きかたについて考えよう」として、教職員の体験談を交えて、卒業後の働き方について学びました。

<1年生>

- ・男でもランチは作っているかもしれないし、職業だけでその人の学歴を決めつけるのも悪いことだと思った。これからは、偏見や思い込みはやめて、真実をきちんと伝えていきたい。
- ・自分自身も少なからずの偏見は絶対に1つや2つは持っていると思う。それは見た目や、偏見に染まった発言などを真実だと思い込んでしまうからだ。瞬時に判断することも大切でだが、しっかり決断する際はじっくりと考えて視野を広げていきたい。
- ・今日は自分の固定観念が相手にとっては違うこともあることに、改めて気づくことができた。例として挙げられていた4つの話は違和感を感じるものばかりで、〇〇だからや〇〇なのにとという言葉は自分でも使っていることがあるので、これから気を付けていきたい。
- ・自分では気づかないうちに、人に差別をしているかもしれないので、発言をする前にしっかり考えて言いたい。トリックアート等でも人それぞれ違う見方があり、あって良いと改めて思いました。偏見を持っている人がいたら、それは偏見だと教えてあげたい。
- ・私はこれまでと変わらない考え方でいいと思った。私は偏見や差別になるような考え方を持ちあわせていないので、今日の授業はあまりじっくりこなかったです。考えや価値観は生きている人間の数くらいあるのではないのでしょうか。自分がすべて正しいと思うのはどうか一度振り返るのもいいと思った。偏見を捨てむしろ違いを楽しみたい。

<2年生>

- ・部落差別の存在は知っていたが、その理由やなぜかは考えたことはなかったので、「妥当性のないことから」ということにそうだなと思った。
- ・これまで差別や人権の授業を受けてきたが、何度もするほど大切なことなんだと思った。その度に考えさせられることがあって、まだまだ人権のことは勉強が足りない。
- ・いじめや差別は0にはできないと思うが、少なくすることはできる。増やさないためにまず自分ができることは、自分がしないことだと思う。
- ・ゆっくりと考えて答えを出していきたい。いじめをなくすのは絶対に無理で、なくしたいと願うだけで何もできないし、人間は強くもあり弱くもあると思う。正しい生き方をしたいと思った。
- ・差別がなくなることは永久にないと思う。人間は自分より劣っていると思えるものがあってこそ、安心できる生き物だから。自分が底辺の存在になりたくないから、人間は努力するものだと思う。
- ・昔の差別は私が思っている以上にひどく残酷で、どれだけ耐えられない差別を受けていたのか知ることができた。うわさを信じこんだり、思いこんだりするのはばかばかしい。信じ込む前に、自分たちが知ろうとする努力をしなければいけないと思った。
- ・解放令が出されてみんなが平等になるかと思ったが、逆に戦いが起こったことを初めて知った。現代では理由もないのにいじめられて、自殺する子もいて大きな問題になっている。いじめを見たら注意できる人間になりたい。
- ・差別する人も生まれたときから「自分たちとは違う人」と教えられていたら、解放令が出たからと言って受け止められない気持ちが分かる気がした。でも差別は絶対にいけないことなので、難しいと思った。

- ・解放令の意味がほとんどなかったことや、さらに差別の犠牲が増えてしまった事実ショックを受けた。
- ・2000年以上も差別があることが当たり前だったことは怖いなと思いました。
- ・差別する側もされる側も悪くはないと思うが、止めようという集団がいれば差別で亡くなる人もいなかったのではと思う。将来差別に出会ったら、「止めよう」と世の中に言いたい。こんな悲しいことはあってはならない。

<3年生>

- ・労働時間にケガをしたら自分でお金を払うのではなく、労災となることが分かってよかった。これからのアルバイトや就職の際には会社に役立つような努力をしていきたい。
- ・社会に出て働くには、自分のことは自分で守らないといけない。もし辛くなったら一人で抱え込まずに、周りの人に相談することも大切である。
- ・働く際の労働条件や制度を知っておかないと困るのは自分だということが分かった。自分も働く時にその仕事のことを理解して働きたい。
- ・進学先でアルバイトをする際にも、労働条件などについてしっかり把握することが大切だと思った。一人の大人として働くことになるので、周囲の人との人間関係も大切にしていきたい。
- ・働くことはただお金を稼ぐだけでなく、自分の成長につながっていくのだと思った。より良い会社を作るには一人一人の努力が大事なのだと思う。
- ・この先働く上で労働に関する条件や規則がいかに大切か分かった。労働状況を雇用者側に任せてばかりいたら自分の身は守れないかもしれないと分かり、労働条件を知ることは大切だと思った。辞めなくなったら労働組合や上司に相談したい。
- ・働くことは生活のために必要不可欠だが、大変で嫌なことだというイメージを持っていたが、働くことに対して前向きになった。自分にやりがいのある仕事や職場環境を選択したり、周りからの信頼に応えることが人生の中で達成感を得られる大切なことだと分かった。

※※ 「いのち・愛・人権」展を見学して

- ・中学の時にも行ったが、それでもまだ知らないことが多くあると感じた。身近にある取組みや施設など初めて知ることが多くあった。このような機会を大切に、これからは他人事ではいけないと思った。
- ・実際に点字を作ることができ、それを目の不自由な人に見てもらって大変貴重な経験ができた。自分では完璧だと思っても間違っているところがあったのでとても難しいと思った。
- ・拉致、失踪者の人数が約470人もいること、そしてそのほとんどが戻ることができていないことに、北朝鮮の人も同じ人間なのに、どうして分かりあえないのかと思った。
- ・普段の自分たちは障がい者に対して批判的に考えていたなと感じた。もっと自分たちの行動を考えるべきだ。
- ・自分にもサポートできることがあると知り、そんな人材になりたいと思った。障がいの有無に関係なく、だれもが普通に暮らせる環境に変えていきたい。
- ・女性はDVを受ける人が多くいることが分かり、絶対にあってはならないと思った。また島根でも168件の虐待があることや身元調査が人の命を奪うことがあることを知り、大変驚き悲しくなった。
- ・平和に暮らすためには、自分たちが意識しなければならぬことがあると分かった。障がい者差別や沖縄のこと、女性差別のことなど自分にも関連していることが多くあるのでしっかり考えたい。
- ・世界中で人権を無視したことが多く起こっているが、一方でそれに立ち向かおうという行動も起こっていることを感じる事ができた。普段は人権について深く考えることはないが、ちょっとした思いやりでも、相手や自分の人権を守ることができると思った。

